

1. スタッフ構成

(1) 前年度職員1名退職に伴い4月に1名採用した。また、12月より1名産・育児休暇に伴い契約職員1名を採用した。診療放射線技師6名(契約職員1名含む)で業務を遂行した。主な業務は一般撮影、造影透視、CT、MRI、骨密度測定で、救急外来に対しても24時間の対応をおこなった。

2. 2016年度の活動

(1) 放射線機器について

骨密度装置の故障に伴い早急な修理と更新の検討を行った。故障に際しては外来部門、医事部門と連携し、診療への影響も最小限にとどめた。その他放射線機器の老朽化に伴う故障を防ぐため、機器の状況把握と情報共有を徹底した。

(2) 技術連携について

3月には胃透視の研修を済生会熊本病院予防医療センターにて実施した。人員的な問題もあり積極的な動きはできなかったが、今後の連携の大きな礎となった。済生会熊本病院と連携していくなかで、新たな技術や知識を得て業務の改善をおこなっていききたい。

(3) 業務範囲の拡大

技師1名が健診における腹部・乳腺超音波検査を習得した。さらなるスキルアップをおこない、関連部署と円滑に業務が遂行できるように協力していく。また、次年度に1名腹部超音波検査を研修できる環境を整備中である。健診受診者へのサービス向上を図るよう継続していききたい。

(4) 職場環境について

ストレスの少ない働きやすい部署を目指し、活発なコミュニケーションを心がけ業務にあたった。また有効な年次有給休暇の取得や、連続勤務の解消のために当直業務、特に休日祝日の人員配置を再考し、ワークライフバランスの充実を図った。

3. 今後の課題と展望

(1) 腹部超音波検査への参入

診療における腹部超音波検査を1名が習得し、さらに1名が腹部超音波検査研修を実施予定である。関連部署との調整をしっかりとこない、人員の業務効率性向上を目指して連携していききたい。

(2) 安全管理に関して

造影剤の副作用は例年数件ずつ起きている。その状況を把握しながら院内へ情報の提供をおこなっていく必要がある。定例の報告にも取り入れ、周知を図りたい。また院内での教育の一貫としても重要な分野であると考え、情報提供の場を構築していきたい。

(3) 業務体制について

次年度は院内での教育活動を少しずつおこなっていききたい。個人のスキルアップとともに病院全体での放射線検査関連の知識向上に努める。

ワークライフバランスを実践し、メリハリのある職場環境を目指す。

